

第 3 回公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
定期総会
平成 26 年度事業計画（案）

平成 26 年度事業計画（案）

再び「放射線技師から診療放射線技師へ、もっともっと診療へ」

現在の医療は、社会の変化につれてチーム医療へとシフトしてきており、そのチーム医療を推し進めるために各職能団体は、専門性の追求と業務の拡大を進めています。診療放射線技師（以下、技師）の仕事は放射線を用いて撮影・検査し、画像を作成することが主な業務ですが、画像だけでは片手落ちということを再認識しましょう。つまり読影所見レポートを付けて画像とレポートがセットとなるべきということを認識すべきだと思います。例えば、読影専門医がいない中小規模病院では、レポートをどう作成し、臨床情報として活用していくのか。そのために画像診断専門医の力をどう借りるのか。また我々が実践してきた一部の読影をどう広げていくかなど、検討すべきことは多いと思います。医療機関ごとにいろいろな段階があるとは思いますが、画像の担当者として「画像＋読影レポート」は不可欠であり、自分たちだけできるもの、そしてできないものに対しては、画像専門医のコメントをもらえるようなシステム作りが求められます。「撮りっぱなし」はもう許されません。

「読影の補助」はあくまで「読影」です。補助だからと許されるものではありません。若い人は大学で「臨床画像情報学」という科目で読影の授業を受けています。そして技師は日夜、多くの画像に囲まれ格闘しています。患者を診ている技師だからこそ、装置の性能に熟知している技師だからこそ、造影剤を含め医療安全に配慮した検査ができる技師だからこそ、技師にしかできない読影ができるはずです。そして読影力に富んだ技師だからこそできる画像作成能力を生かし、数枚の画像で「一目瞭然」という結果を示すことができれば、詳細なテキスト文は不要になります。

超音波検査を経験した実地体験が他画像の検査手技や読影向上に大きな効果があると報告されています。CT・MRI 検査を経験する前に超音波検査を経験することで、診断する立場からより小さな病変を、

そしてより深く画像を見ていく姿勢が、検査に取り組む考え方を鍛えているようです。胃透視検査もまた同様で、動態画像から病変を疑い、撮影し、その静止画像を見て読影していく。マンモグラフィでは、その読影をするのみでなく超音波検査を加え、MRI 検査、さらに読影を加えて組み立てていく姿勢こそ、これから技師が目指す一つの道です。全身に関する画像診断は深く厳しいと予想されていますが、特定の部位、例えば脳・心臓・乳腺・胃など例を挙げればきりが無いほど、この分野の読影にはすでに多くの技師が活躍しています。CT・MRI 検査は安全性、正確性の上にスピードが要求されます。これは若い人にかないません。検査は若い人に譲りつつ、技師として生き残っていくためには、読影力を付けていけば可能です。

災害医療に関し、福島第一原発事故では、放射線に関する事象が発生しましたので、技師が大きく取り上げられました。しかし、原発事故がなければ、出番が少なかったでしょう。他職種が活躍している傍で、装置を動かす電気がなければ何もできない我々の存在感は低いのです。災害現場において、医師が聴診器 1 本でトリアージをしていくのではなく、客観的な画像診断を求められていることが最近の報告で分かりました。現在バッテリー駆動の X 線撮影ポータブル装置と、FPD 使用画像装置がジュラルミンケースに収納されている「災害画像検査ツール」が準備されていますので、この方面での活躍も期待します。また超音波検査を使用すれば、長期仮設住宅在住者の健康管理にも対応できます。

「多くの道が開かれてきた。しかし、より道を広げるのは我々だ。放射線技師から診療放射線技師へ。もっともっと診療へ」

本会は、常に顧客満足という視点から運営してきましたが、本年も同様に県民と会員が期待する職能団体を目指し、理事一同全力で走ります。ご支援をお願いします。

1. 職業人としての質の向上

- (1) 学術大会・認定講習会・セミナーの定期開催
 - ア. 埼玉県診療放射線技師学術大会
 - イ. 胸部撮影認定講習会
 - ウ. 上部消化管検査認定講習会
 - エ. フレッシュヤーズセミナー (SART セミナー)
 - オ. 放射線技術部門マネジメント・セミナー
(医療安全、接遇・クレーム、医療経営、人材育成)
 - a. 技師長 b. 役職者 c. 中堅職員
 - カ. CT 認定講習会
 - キ. MRI 基礎講習会
 - ク. 救急セミナー
(日本救急撮影技師認定機構との共催)
 - ケ. 読影力向上のための講習会
(支部開催セミナー)
- (2) 会員講師の育成と体制づくり
- (3) 他県放射線技師会や他団体との合同講習会企画推進
 - ア. 関東甲信越診療放射線技師学術大会への協力
 - イ. 埼玉県医師会主催事業への支援
 - ウ. 埼玉臨床画像研究会への協力
 - エ. 日本放射線技術学会関東部会との合同企画
 - オ. 日本診療放射線技師会との合同開催企画
 - カ. 各認定機構との合同企画 (埼玉開催の推進)

2. 組織運営に関わる事業

- (1) 行政との連携
- (2) 診療放射線技師業務の実態調査
(仕事の質・量について)
- (3) 入会促進事業の強化

3. 公益目的事業

- (1) 学術情報の提供 刊行誌「埼玉放射線」の発刊
- (2) 市民公開講座の開催
- (3) 地域自治体主催事業への参画
- (4) 医療画像展の開催と支援
- (5) 県民向けホームページの充実
- (6) 医療被ばく相談の迅速な対応
- (7) 学校 (小・中・高) における放射線教育の担務
- (8) がん患者支援チャリティ・イベントへの参加

4. 編集・情報

- (1) 本会会誌「埼玉放射線」の充実
- (2) 診療放射線技師向けホームページの充実
 - ア. 各講習会、セミナー、イベントなどの迅速な広報
 - イ. 学術資料などのデータベース化を推進
- (3) メールマガジンの有効利用

5 その他

- (1) 中長期計画の策定
- (2) 医療技術関係団体との連携
- (3) 技師会事務所長期修繕計画の立案

ご審議の程、よろしくお願いいたします。